

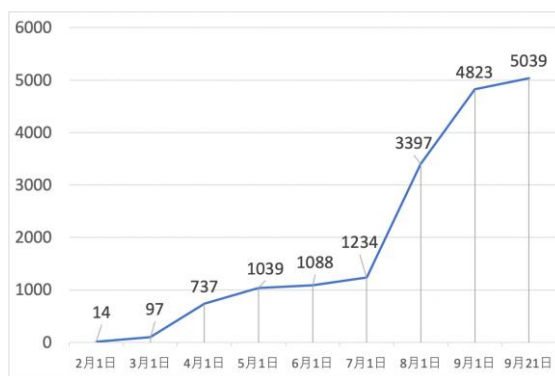
2020年10月14日

訪日旅行の再開を待ち望む香港人 ～香港で福岡を楽しむ～

香港事務所長 山奇 智幸

1. 香港における新型コロナウイルス感染症の状況（9月21日現在）

香港では、7月に入って新規感染者数が増加したため（図1）、7月の香港国際旅行博や8月の香港ブックフェアなど、大型イベントの中止や延期が相次いだ。また、7月15日からは夜間の飲食店での店内飲食が禁止（テイクアウトは可）されるなど、防疫措置が再強化された。しかし、8月中旬から新規感染者数が減少傾向となり、8月28日から夜間の店内飲食が段階的に再開されるなど、徐々にではあるが日常を取り戻しつつある。一方で、日本政府の入国規制や香港政府の香港居民に対する香港入境後の隔離措置（14日間）は継続しており、訪日旅行の再開目処は立っていない。今回は、この様な状況下でも、訪日旅行の再開を待ち望む香港人の皆さんが、香港でどの様に日本・福岡を楽しみながら過ごしているか、当事務所の取り組みと合わせて紹介したい。



（図1）香港での感染者数推移（香港政府 HP）

2. 香港で福岡を楽しむ香港人

（1）河内藤園をモデルにした藤棚が登場

香港島の北角にあるショッピングセンターの広場では、8月から北九州市の河内藤園をモデルにした藤棚トンネルが再現され、写真撮影を楽しむ多くの香港人で賑わっている（写真1）。このイベントの担当者によると、「多くの香港人が日本を恋しく思っており、少しでも日本を感じてほしい」という想いで企画したとのこと。担当者のご厚意で受付カウンターに北九州市の観光パンフレットを設置させていただいた。ここを訪れた香港人の皆さんが、コロナ明けに北九州市はじめ福岡を訪問してくれることを期待したい。



（写真1）北角の藤棚トンネル
（筆者撮影）

(2) 香港事務所と飲食店とのコラボ事業

前回レポートでご紹介したフランスの老舗「ダロワイヨ」とのコラボ企画が非常に好評だったため、当初2週間の予定が3か月延長され、8月末に終了した。その様子は、香港メディアに加え、毎日新聞福岡版（1面）及び東京版（社会面）に「日本ロスの香港市民に好評」と、大きく掲載された。

現地で人気の日本居酒屋「JunG39」では、7月から夜間の店舗内営業が禁止だったこともあり、テイクアウト可能な期間限定の福岡弁当を提供。はかた地鶏の手羽先、福岡県産米の元気つくし、鱈卵屋の明太子、茅乃舎の出汁を使った出汁巻き卵などの福岡県産の食材が採用され、福岡への旅行を待ち望んでいる香港の地元客で連日賑わった。

また、8月29日から1週間、はかた地鶏のプロモーションが、現地食品卸大手の新華食品が運営する食品スーパー「九號水産」と飲食店「日本料理西村」などで同時開催された（写真2）。スーパーの大型スクリーンでは福岡や久留米の観光PR動画が流され、会場では観光パンフが配布されるなど、福岡の食と観光のPRが一体的になされた。

さらに、9月21日から、日本文化好きの若い世代をターゲットに、現地の若者が集まるメイドカフェとのコラボで、明太子パスタや八女抹茶デザートなど期間限定メニューの提供を開始した（写真3）。



（写真2）九號水産で販売されているはかた地鶏（筆者撮影）



（写真3）メイドカフェでの福岡限定コラボメニュー（筆者撮影）

3. 今後の見通し

コロナの影響で香港経済も大きなダメージを受けてはいるが、香港は依然として本県および日本にとって農水産物の主要輸出先のひとつである。訪日旅行を心待ちにしている香港人は非常に多く、現在は香港域内で日本・福岡の食材などを楽しんでいるため、今もなお日本の食材に対するニーズは非常に高い。また、訪日旅行が再開すれば、他の国や地域に先駆けて福岡に戻って来てくれる可能性が高いため、インバウンドにおいても非常に重要な市場と思われる。

コロナのほか、大規模デモや国家安全維持法など、最近では悲観的なニュースが多い香港であるが、これまで述べてきたとおり、香港の日常の様子は依然として活発である。一方で、韓国や台湾など他国・地域との競争が非常に激しい地域でもあるため、福岡県内の市町村や企業と連携し、県内観光スポットや県産品をPRし、その魅力を発信し続けていくことが非常に重要であると思う。